1994 年ノースリッジ地震（Mw 6.7）

そのとき「免震病院」では、免震構造「南カルフォルニア大学病院」

ロサンジェルス中心部にある 8 階建ての免震構造「USC 病院」（震央から 36km）では、敷地表面で 0.49g、免震装置直下で 0.37g の水平最大加速度が入力されたが、建物内の応答加速度は屋上階で 0.21g、使用階の 1 階～7 階ではわずかに 0.10g～0.15g と、免震効果を如実に実証した記録が得られた。
この地震でもまたその後の余震でも、USC 病院では高さ 6～8 フィートの棚から花瓶やボトルなど何一つ落下しておらず、建物内の各種機器類にも何の被害もなく、病院機能は完全に無損傷で健全に維持されている。地震発生の午前 4 時 31 分、このとき、USC 病院ではエマージェンシーの脳外科手術がおこなわれようとしていた。まさにメスを入れようとしたとき、地震の揺れが感知された。建物の穏やかな揺れがおさまるのを待っただけで、手術はすぐに着手され、滞りなく終了したという（D. R. Edens 氏、USC Hospital）。
なお、延べ床面積 3 万 m^2 のこの建物は、「鉛プラグ入り積層ゴム支承（LRB）68 基および天然ゴム系積層ゴム支承（NRB）81 基」、計 149 基の免震装置に支えられている。
なお、USC 病院は、USC メディカルセンターという大学病院の一大医療センター内の一病院である。周辺の隣接する 4 階建て薬剤棟では多くの薬品ビンの落下事故が発生している。ニューヨークタイムズによれば、このセンター内における他の建物（在来型の耐震構造）の被害総額は 385 億円に達し、入院治療主病棟の 1 翼は余震で損傷が拡大し、閉鎖されたと報告されている。（宮﨑光生）

南カルフォルニア大学(USC)病院　写真　宮﨑光生